



実践報告

(交通安全教育)

総合的な学習の時間での「交通安全学習」への取り組みについて

— 事故の教訓を自分たちの学校に残すために —

長野市立三陽中学校

1 はじめに

本校は、全校 629 名 22 学級の規模である。学区内にはエムウェーブがあり、大型幹線道路(国道 18 号・四車線のオリンピック道路)やそれらをつなぐ幹線道路が多くある。24 時間の自動車交通量は 25, 000 台を超え、市内でも車の交通量が多い地区と言える。

2013 年(平成 25 年)8 月 7 日、本校中学 2 年生の女子が、部活動の帰り自転車で帰宅途中、国道 18 号西尾張部交差点で大型トラックにはねられ死亡する事故があった。ヘルメットを着用し、青信号で横断中の事故であった。事故原因は、車・道路設置物の「死角」であった。

その事故を受け、夏休み明け臨時の交通安全教室を実施。「車の死角」について県交通安全教育支援センター・長野中央警察署の指導を受けた。また、PTA 校外指導委員会の協力を得て、それまでなかった「三陽中学校交通危険箇所マップ」を作り、全校配布を行った。その事故以降、学校での交通安全教室の内容も変わってきている。

2 本校の交通安全教育について(概要)

全校生徒対象の交通安全教室を、毎年 4 月に実施。「自転車安全利用五則」について DVD の視聴と長野中央警察署の方の講演を行ってきた。

事故後は、「車の死角」について県交通安全教育支援センターの指導の下、生徒体験型の交通安全教室を行っている。また、生徒会の活動として生徒下校時に評議員による「交通安全呼びかけ運動」、毎月 7 日を「三陽中学校交通安全の日」と設定し、各クラスで応援委員による「交通安全の誓い」の朗唱を行っている。

3 交通安全アドバイザー派遣・活用事業での取り組み 「総合的な学習の時間での交通安全学習」

(1) 4 月～9 月(調査活動)

4 月、3 年生のスタートにあたり総合的な学習の時間のクラステーマを決めることになった。2013 年の事故当時、交通安全指導係をしていた担任から生徒に次のことを話した。

- ・事故から 3 年が経過し、事故を直接知る生徒はいなくなったこと。
- ・学校職員も異動の関係で、当時の事故を直接知る教員が少ないこと。

長野市立三陽中学校交通安全の日

交通安全の誓い

- 私たちは、交通ルールを必ず守ります。
- 私たちは、自転車に乗るときは必ずヘルメットをかぶります。
- 私たちは、横断歩道を渡るとき、必ず車の動きに注意します。
- 私たちは、「行ってきます」と家を出たら、必ず「ただいま」と言って家に帰ります。

平成 28 年 月 日



年 組

| | | | | |
|--|--|--|--|--|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

- ・地域の方は事故のことを忘れずに事故現場で毎月、交通安全指導を行っていること。
- ・三陽中学校として、事故の教訓を残していかなければいけないのではないか。
- ・今年の総合的な学習の時間では、「交通安全」をテーマに学習を深めていきたい。
生徒は真剣に受け止めてくれ、クラスのテーマが「交通安全」に決まった。

- ① 5月13日(金)事故現場である西尾張部交差点をクラスで見学。慰霊の碑に献花。その後、「交通安全」に関して調べたいことを考え、グループに分かれ調査活動を始めた。

調査グループ

- ・道路標識について
- ・学区内の危険箇所マップづくり
- ・交通事故事例について
- ・全校アンケート、意識調査
- ・交通安全教室を開くには

活動はPDCAサイクルに基づき、以下の流れで行った。

P (活動計画を立てる)

D (計画に従って調査活動を行う)

C (調査で分かったことをまとめ、クラス内で発表。仲間から今後の活動に関するアドバイスをもらう)

A (アドバイスをもとに、次の活動を計画する)

- ② 9月15日(木)1回目のクラス発表。そこで交通安全アドバイザー2名、長野中央警察署交通課からも2名にきていただき、生徒へのアドバイスをしていただいた。



○生徒の感想から

- ・標識の赤・青・黄色や形にも、様々な意味があることが分かった。
- ・交通安全マップは地区ごとに分けて、地図上に危険箇所を示すとわかりやすいことが分かった。
- ・全校生徒に交通安全の意識を持ってもらうためには、事故のことを具体的に伝えていった方がいいと教えてもらった。
- ・全校アンケートを取るなら、その結果をまた全校に発表した方がいいと思った。

その後、アドバイスを参考にさらに調査活動を行い、文化祭での発表に向けて準備を進めた。

(2)10月～12月(発信に向けて)

9月末の文化祭で、これまで調査してきたことを展示発表した。次の段階として、これまで調査してきたことをどう「発信」していくかを考え、以下の4つの方法に決まった。

- A「小学校で交通安全教室を行う」
- B「交通安全に関するビラを作り、地域の方に配布する」
- C「チラシ入りのポケットティッシュを作り、地域の方に配布する」
- D「交通安全ポスターを作り、学区内の店舗に掲示してもらう」

今回も、PDCA サイクルに則り、活動を進めた。

①11月9日(水)各グループごとの中間発表とアドバイスをを行った。その際、再び交通安全アドバイザー2名と長野中央警察署から1名来ていただき、1回目と同様アドバイスをしていただいた。



○生徒の感想から

<Aグループ>

- ・小学生相手なので、易しい言葉でわかりやすく伝える必要があることが分かった。相手の立場を考えて、台詞を決めていきたい。
- ・恥ずかしがらずに、堂々とやるのが大事だと思った。アドバイスで「リハーサルも繰り返しやった方がいい」と言われたので、しっかりやって本番に臨みたい。

<Bグループ>

- ・チラシを配る対象の人を絞った方がいいと言われたので、年代によってチラシの内容を変えていきたい。
- ・字だけではなく、見やすいように絵や色をつけたチラシを作りたい。
- ・実際に配るときにどうやって渡せばいいのかしっかり考えていなかったが、アドバイスをもらって、渡すときに一言言葉をかけて渡すのがいいと分かった。

<Cグループ>

- ・書くスペースが小さいので、見やすい見出しを考えたい。
- ・ティッシュの中にチラシだけではなく、反射材も入れた方がいいと教えてもらったので、反射材をつけたくなるチラシにしたい。

<Dグループ>

- ・「多くの人に見てもらうためには、もっと多くの場所に貼った方がいい」「雨に濡れてもいいように工夫しよう」というアドバイスをもらったので、これから考えていきたい。
- ・交通安全に関する資料をたくさんいただいたので、ポスターも数種類作って、見た人がいろんな意味で交通安全を意識してもらえるようなポスターにしたい。

②その後、準備を進め、以下の日程で各グループごと発信活動を行った。

12月2日(金) 学区内の古牧小学校で3年生対象の「交通安全教室」を実施。

7日(水) 朝7:30~8:00の間、西尾張部交差点で「チラシ・ポケットティッシュ配布グループ」が配布活動。

両日とも交通安全アドバイザー2名、長野中央署交通課2名の方に指導していただいた。

翌8日(木) 長野駅前で行われた「年末防犯・飲酒運転防止強化パレード」(長野中央警察署生活安全課主催)に参加。長野駅前でもチラシ・ポケットティッシュ配布を行った。

9日(金) 保護者懇談会の午後の時間を使い、「ポスター掲示グループ」が学区内7店舗にポスター掲示依頼を行った。その後も、依頼を続け学区内30店舗の協力を得られた。

2日の交通安全教室は信濃毎日新聞と長野市民新聞から取材を受け、7日のチラシ・ポケットティッシュ配布はNHKとテレビ信州の取材を受け、それぞれ報道していただいた。



4 事業の成果と今後の課題

<生徒の感想>

○今日の交通安全教室は、大成功だったと思います。細かく言えば反省点は少しありますが、それでもいいものにできたと思います。台本もまだできていなかった2週間前から着々と準備が進んで、今日までに完成できたことをとてもうれしく思いました。

やっとできたんだって、少し感動もありました。終わった後に、小賀坂さん(中央署)と内堀さん(交通安全アドバイザー)が泣いていて、そんなにすごかった!?って思いましたが、ほんとにここまで来るのにとってもサポートしてもらって、逆にこちらがたくさんお礼を言わなきゃいけないな、と思いました。

○今日はティッシュ配り本番でした。朝寒い中、とても多くの人が集まっていてとても驚きました。最初は、声をかけるのが恥ずかしく積極的に配れませんでした。しかし、周りを見ると同じ仲間が一生懸命活動している姿を見て、自信ができました。それからは、相手の顔を見てしっかり説明することができ、100個配り終えることができました。これまで私たちのことを支えて下さった交通安全アドバイザーの方や中央警察署の方を始め、今日協力して下さった古牧地区の方々に感謝の気持ちでいっぱいです。この活動を行ったことは、きっと将来にも役立つと思います。三陽中に「交通安全」を残していくために、もっと頑張っていこうと思います。

○今日はうれしいことがありました。金曜日にポスターを貼りに行ったのですが、それをちゃんと飲酒コーナーに貼っていただき、自分たちが描いたものがお店に飾られていて、とてもうれしかったです。もっと多くの人に知ってもらうためにたくさん貼りたいです。

今回の支援事業を受け学級で総合的な学習の時間を使って「交通安全」に取り組んだが、交通安全アドバイザーの方々の支援がなければとうてい形にすることはできなかった活動であった。

また、学習を進めるにしたがい生徒の意識も高まり、「自分の交通安全に対する意識が変わった」「もっと多くの人に交通安全の大切さを伝えたい」「せっかくここまでやってきたのだから、中学校に交通安全の伝統を残したい」という声が聞かれるようになってきた。

2学期末、自分たちの活動を「広げる」「残す」ことを考えた生徒たちは、「全校生徒への反射材配布」や「校内各所へのポスター、チラシの掲示」、2年生への「西尾張部交差点での交通安全声かけ運動への参加呼びかけ」を行った。自分たちが取り組んで高めてきた「交通安全の意識」を、全校にどう伝え、残していくのが3学期の課題である。

5 まとめ

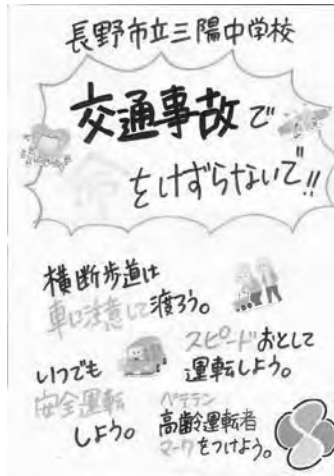
本校の生徒は、休日の私用でも自転車に乗る際はヘルメットをかぶる習慣ができている。しかし、自転車の乗り方や交通ルールの遵守に関しては、指導を継続していく必要を感じる。

来年度は、生徒会生活委員会で交通安全に関する活動が計画されている。また、学校のランドデザインの中に「交通安全」の言葉を具体的に入れていく予定である。総合的な学習の時間で活動を考えてくれている教員もいる。

本年度を本校にとって交通安全の意識を高める再スタートの年とし、1つの学級で交通安全に関する学習を進めてきたが、来年度はさらに学校職員・生徒共々に全校規模での「交通安全意識の向上」を図っていきたい。

(文責 教諭 楠 直樹)

(資料)



※生徒自作のチラシとチラシ入りポケットティッシュ



※交通安全ポスター3種類



※事故現場で交通安全のチラシを配る生徒



※報道の取材を受ける生徒

登下校時の自転車利用を中心にした通学安全の取組について

— 交通安全アドバイザー派遣・活用について —

長野市立若穂中学校

1 はじめに

本校は、長野市街から南東に、須坂市の南に位置する山間の扇状地に広がる若穂地区の中心に位置している。東の保科地区は山間の高地であり、やや急斜面が多く、本校に向かって下りになる。川田・綿内地区は千曲川の川岸から広がる平地が多く、本校はその東の端にある。

全校生徒は420名（平成28年度12月1日現在）、綿内地区261名、川田地区66名、保科地区93名が、それぞれの方向から徒歩、自転車、（一部・季節によりバス）で通学している。平成28年度より、自転車通学の許可範囲を変更したため、現在約330名が自転車通学をしている。

2 本校の交通安全体制について（概要）

新入生に対しては、中学校体験入学の時に、自転車通学の許可範囲と通学のきまりを児童、保護者に説明している。入学時に、自転車通学希望者へ本校独自の自転車の乗り方、自転車走行の仕方を指導している。

全校生徒に対しては、5月に安全な自転車の乗り方を中心に指導する学校安全教室を実施。

また、5月と11月に、教職員と保護者（PTA校外指導部）と風紀委員会生徒が協力して通学路での街頭指導を、3か所で、1週間実施している。

3 交通安全アドバイザー派遣・活用前の交通安全教室について

5月10日に、長野中央警察交通課 小賀坂広美 様 を講師として、1授業時間（50分間）の交通安全教室を、全校生徒の参加で実施。長野県交通安全教育支援センターの方1名もご協力いただき、DVDの視聴と生徒が参加しての自転車の乗り方実演を通しての指導を行っていただいた。

4 交通安全アドバイザー派遣・活用について



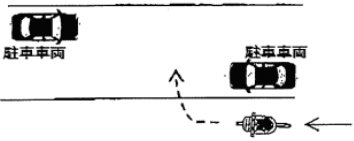
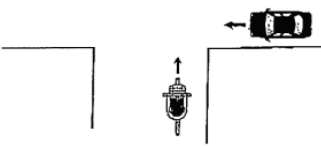
（1）教職員に対する説明、研修

交通安全アドバイザーとして、長野県交通安全教育支援センターの主任指導員2名、堀 愛さんと内堀由美さんに依頼して、係職員とともに、生徒の通学路に出向き、生徒の登校の様子を視察した。

（2）生徒に対する指導

11月11日(金)、全校生徒と職員が参加して、学校安全教室を1授業時間(50分間)実施した。

アに記載した2名の交通安全アドバイザーに講師をお願いし、現地を視察した登校の様子の写真で提示し、安全な自転車走行について具体的に指導していただいたり、『自分の身を守るため』に考えてみよう』と題したプリント(下図)で各生徒の自転車走行の安全意識について見直して思考をさせたり、プリントの回答から具体的な行動を指導していただいた。

| 中学校自転車交通安全教室 | | |
|---|---|---------------------------|
|  | | 「自分の身を守るため」に考えて見よう |
| 次の質問に答えましょう。 該当する方に○をつけましょう。 | | |
| 1 | 自分で自転車の点検をしたことがある | (はい・いいえ) |
| 2 | 自転車に乗っていて、歩行者に対して「危ない!!」と思ったことがある | (はい・いいえ) |
| 3 | 自転車に乗っていて、車に対して「ヒヤッ!」としたことがある | (はい・いいえ) |
| 4 |  この標識がないところでは13歳以上は原則、自転車で歩道を走ってはいけない | (はい・いいえ) |
| 5 | 安全確認は「右・左」だけすればよい | (はい・いいえ) |
| 6 | 一時停止の標識がなければ止まらなくてもよい | (はい・いいえ) |
| 7 | 「内輪差」「死角」など車の特性を知っている | (はい・いいえ) |
| 8 | 次の場面で、どんな危険があるか、あるとすればどう回避したらよいか、余白に記入しましょう (図1) (図2)  (図3)  | |
| 9 | 自転車に乗っていて歩行者にぶつかりケガをさせたり、死亡させたりしても、中学生が責任を取る様な事はない | (はい・いいえ) |
| 10 | 「自分の身を守るため」に自分自身が交通安全で必ずすべき基本を考え、記入しましょう 『 _____ 』 『 _____ 』 | |
| 今、行動のとき 交通安全「私から！」 | | |

5 交通安全アドバイザーの関わり

- ・交通安全教室での指導資料を集めるために、事前に生徒の登校の様子を視察していただいた。
- ・交通安全教室で、生徒へ直接指導
- ・後日、指導の成果を確認していただくために、生徒の登校の様子を視察していただいた。

6 事業の成果及び今後の課題

- ・生徒の自転車の乗り方を見ていただいたことで、具体的な指導の方向を考えていただき、指導していただいたことは、大変効果的であった。職員の受け止めもよく、後日、検証していただいた日やそれ以降の自転車の乗り方の様子に、改善が見られた。
- ・講話だけ、一般的な安全指導になり、生徒への指導の効果が弱かったこれまでの安全教室に比べると、同じ時間（全校指導2回、2時間）の中で、非常に効果の高い指導をしていただけた。
- ・生徒の交通安全への意識を高めるだけでは、現状を上回る安全な自転車走行を望むことは難しい地域の交通事情がある。街頭指導に参加した保護者からも、地域の道路を通行する自動車の安全な運転を望む声が多い。往来の激しい道路、交差点の改善が必要であると考えられる。

(文責 教諭 深澤隆英)

平成 28 年度 防災教育を中心とした実践的安全教育総合支援事業

実践報告集

発行年月 平成 29 年 2 月

発 行 者 長野県教育委員会